

胸部帯状疱疹後神経痛の治療に 肋間神経ブロックとパルス高周波法を施行した期間についての 後ろ向き研究

1. 研究の対象

2013年～2022年の10年間に 胸部帯状疱疹関連痛で当院麻酔科に通院し 肋間神経ブロック、パルス高周波法を受けられた方。

2. 研究目的・方法

胸部帯状疱疹関連痛は神経障害性疼痛のため難治で、鎮痛薬の服用、肋間神経ブロック・パルス高周波法を継続しても、日常生活で痛みを苦痛に思わなくなるまで長期間かかります。各種神経ブロック・パルス高周波法が どのくらいの期間必要だったか、治療法で差異があるのか、治療終了した方のカルテ内診療記録から統計します。

2. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテ記録内の診療情報、通院回数、通院期間。

初診時の症状（痛みによる睡眠障害、日常生活動作への支障の有無）。

3. 外部への試料・情報の提供

無し。

5. 研究組織

りんくう総合医療センター麻酔科 米本紀子, 林 文昭, 林 大貴, 神移 佳, 小林俊司

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者／代表者：りんくう総合医療センター麻酔科 米本紀子